

ハリヨって、どんな魚なの

トゲウオの仲間

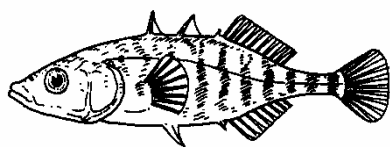
トゲウオの仲間は、体長が5～8センチメートルの黄かっ色の魚で、背びれ、腹びれに、するどいとげが目立つ仲間です。「針魚」ともよばれます。

この仲間は、オスが巣を作り、メスをさそいこんで産卵させ、オスが卵がかえるまで、世話をするので有名です。日本には、イトヨとトミヨという2つのグループがあり、これらは、すんでいる地方によって、海で成長して産卵のときに川に上るものと、一生をわき水の出る池や川ですごすものがあります。ハリヨは、イトヨに近い仲間で、岐阜、三重、滋賀(琵琶湖)の3県の、わき水の出る小川などで見られる魚です。

ハリヨの巣作り

3～4月の産卵の時期になると、ハリヨのオスの体は、黒っぽい黄かっ色から、あざやかな黄緑色に変化します。「結婚できるオスだよ」とまわりに知らせているのです。そして、オスは、水底に浅い穴をほり、水草を集め、体から出したねん液をつけて、巣作りをします。水草の間に自分の体を通して、ねん液でかためた水草のトンネルのような巣を完成させます。メスは、産卵後死んでしまいが、オスは、卵を守って世話をし、かえった子魚が巣をはなれていくまで、およそ1週間ほど、子魚を守ります。

(監修・安部 義孝)



ハリヨ

